

活動予定①

◇ 集中講義 IR3S 共通コア科目の開講 ◇ - 「サステナビリティ学最前線」 -

平成21年度から本格的に開始される大学院サステナビリティ学教育プログラムの一環で IR3S 共通コア科目「サステナビリティ学最前線」が試行科目として開講されます。

この講義はサステナビリティ学研究を牽引するトップランナーによるリレー形式で行われ、最先端のサステナビリティ学研究に触れることが目標です。最も大きな特徴は、遠隔講義システムを用いて東京大や京都大などの IR3S 参加 5 大学で同時開講されることです。

1 日 4 コマの英語による講義とその後の各大学でのディスカッションという構成で、各授業の理解を深めます。茨城大学からは三村信男先生と伊藤哲司先生が第 2 日目(3/3)に講義を担当される予定です。興味のある人は積極的に参加して下さい。

日時：3月2日(月)～4日(水) 9:30～18:00
場所：水戸キャンパス共通教育棟 2号館 1階 11 番教室

お問い合わせは ICAS 事務局・植松まで
TEL&FAX：029-228-8787

m-uematsu@mx.ibaraki.ac.jp

活動予定②

◇ 第 2 回 ICAS 学生サステナ・フォーラム ◇

今回で 2 回目となる学生サステナ・フォーラムは各研究科の大学院生を中心にこれまでの研究成果を発表し、研究科間で交流を図ることを目的としています。ポスターセッションにおいて優秀な発表者には記念品を贈呈し表彰を行います。

サステナビリティ学に関心のある学生を中心に多くの参加をお待ちしています。

日時：3月9日(月) 14:00～18:00
場所：水戸キャンパス茨苑会館 2階第 1 会議室(予定)

◇ プログラム ◇

14:00～14:10 趣旨説明(三村信男教授・予定)
14:10～15:10 ポスターセッションⅠ
15:10～16:10 ポスターセッションⅡ
16:30～18:00 フリーディスカッション

☆フリーディスカッションは軽食をはさみながらの議論を予定しています。

お問い合わせは ICAS 事務局・植松まで
TEL&FAX：029-228-8787

m-uematsu@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS/IR3S Calendar

4 月	新年度スタート 4/7～ ICAS 研究発表会・開始 毎週月曜日 14:00～ 4/17・18 IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウム	9 月	9/12・13 IR3S 後援：日本学術会議(SCJ)国際会議 9/24 IR3S-ICB 2008 ジョイント・シンポジウム 9/26 第 3 回いばらき地域サステナワークショップ 9/28 霞ヶ浦研究会年会
	5 月		5/19 第 1 回 ICAS サステナフォーラム
6 月		6/4 第 2 回いばらき地域サステナワークショップ 6/14 第 1 回集中講義「サステナビリティ学入門」 6/28 第 2 回集中講義「サステナビリティ学入門」	11 月
	7 月	7/9 第 2 回 ICAS サステナフォーラム 7/12 第 3 回集中講義「サステナビリティ学入門」	
8 月		8/9～22 IPoS2008 開催(タイ)	1 月
			2 月
		3 月	3/2～4 IR3S 共通コア科目「サステナビリティ学最前線」 3/9 第 2 回学生サステナ・フォーラム

*網掛けは継続される企画です

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで

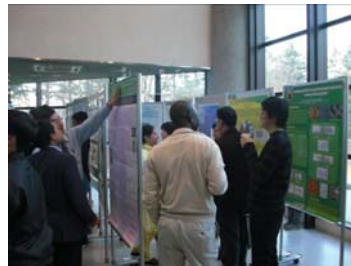
icas@mx.ibaraki.ac.jp

活動報告①

◆ 大学院 GP ワークショップの開催 ◆

1月12日と13日の2日間にわたり、阿見キャンパスこぶし会館にて、大学院 GP ワークショップが開催されました。今回のワークショップのテーマは「環境科学からサステナビリティ学へアジアの農学の役割を考える」。環境と調和した人類の持続的発展のために、アジアの農学はどうあるべきかという命題に関して、3題の基調講演、3つのセッション、および学生による31題のポスターセッションが行われました。

今回のワークショップはインドネシア、バングラデシュ、中国、スリランカなどのアジア各国の教員と学生が参加しました。基調講演や各セッションにおいて、アジアで起こっている環境変化、持続可能な農村開発や農業教育などについて国際交流も伴った大変活発な議論が繰り広げられました。



活動報告②

☆ 第3回 ICAS 第1部門ワークショップの開催 ☆

昨年12月12日に茨城大学インフォメーションセンターで第3回 ICAS 第1部門ワークショップが開催されました。これは ICAS 第1部門のスタッフが中心となり企画・運営されるワークショップで、気象、地盤、都市工学の視点から温暖化による気候変動についての報告や討論が行われました。

現在、注目されているゲリラ豪雨や土砂災害のメカニズム、さらには IPCC の裏話まで数多くの興味深いテーマが取り上げられました。簡単な実験装置を使った自然災害の解説もあり、ユニークなワークショップになりました。

また座談会では各学問分野における温暖化研究の現状や課題が議論され、学問分野間の相互理解やコラボレーションが図られました。

メンバー紹介

上柿崇英

(うえがき たかひで)

茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラム・コーディネーター

みずがめ座・A型



皆様はじめまして。昨年11月に赴任し、サステナビリティ学教育プログラムのコーディネーターをさせていただいている、上柿と申します。専門は環境思想です。サステナビリティとは何か?という問いについては、一言で言うと、「われわれが“限界”の中で、いかにして“公正”かつ、“共同的”に生きられる社会を実現できるかという問題」であると理解しています。この“限界”には、地球システムの持つ環境収容力という限界もありますし、よりラディカルには人間が生物として持っている限界も含まれているでしょう。それらの様々な“限界”を見据えた上で、我々がいかに生きるか、またいかなる社会を目指すのか、それがサステナビリティを問うことだと思います。これまでは哲学・思想の立場からサステナビリティについて考えてきましたが、今後は教育プログラムの実施や皆様との学際的な交流活動など、様々な形で ICAS の取り組みに貢献できるよう努力していきたいです。

◇ 中学校の課外授業に ICAS が協力! ◇

1月19日に ICAS メンバーが茨城大学日立キャンパスで日立市立久慈中学校の中学生に地球温暖化の授業を行いました。事の経緯は、久慈中学校では第1学年の総合学習の一環で、生徒たちがグループになり自ら学びたいテーマを決め、事前に校外の活動先の調査をした上で、課題活動に臨むという学習制度があるそうです。そこで1つのグループが ICAS のホームページを見つけ、温暖化問題に関心を抱き ICAS を訪問してくれたわけです。

授業は ICAS 兼務教員の桑原祐史先生と ICAS 特任研究員の金鎮英さんが担当しました。授業の前半では、「温暖化は茨城県の海にも影響が現われているのか?」、「海面上昇は漁業に影響を与えるのか?」、「温暖化を防ぐために私たちにできることは何か?」などいろいろな質問がありました。素朴な質問ではあるものの、専門的にも研究が進められなければならない重要な問題です。また後半にはキャンパス内で海面上昇の測定方法の屋外実習も行い、授業を終えました。後日、授業を受けた生徒たちから手作りの感謝状を頂きました。

今回の出来事で ICAS は研究者や大学生だけでなく、中学生をはじめ子供たちにも注目されていること、さらには子供たちに温暖化問題を教えることの重要性に気づかされました。今後の ICAS の教育・アウトリーチ活動は小中学生に向けた方向にも展開していく必要があると強く認識しました。



ICAS on MEDIA

==== 茨城新聞好評連載中 ====

2月3日(火)から「個のネットワーク」シリーズの連載が始まりました。このシリーズでは ICAS が主催する「いばらき地域サステナ・ワークショップ」で活躍されている学外の方も執筆されています。サステナビリティの研究者・実践者が双方の視点から紙面上で地域サステナビリティを論じます。

Editor's Note

今年も梅の季節がやってきました! 寒かった冬もそろそろ終わりをむかえ、新しい季節が到来しそうです。ICAS にも新しいメンバーが! ?皆で協力して、これからもがんばっていきますので、宜しくお祈り致します。いつでもご意見・ご感想をお寄せください。